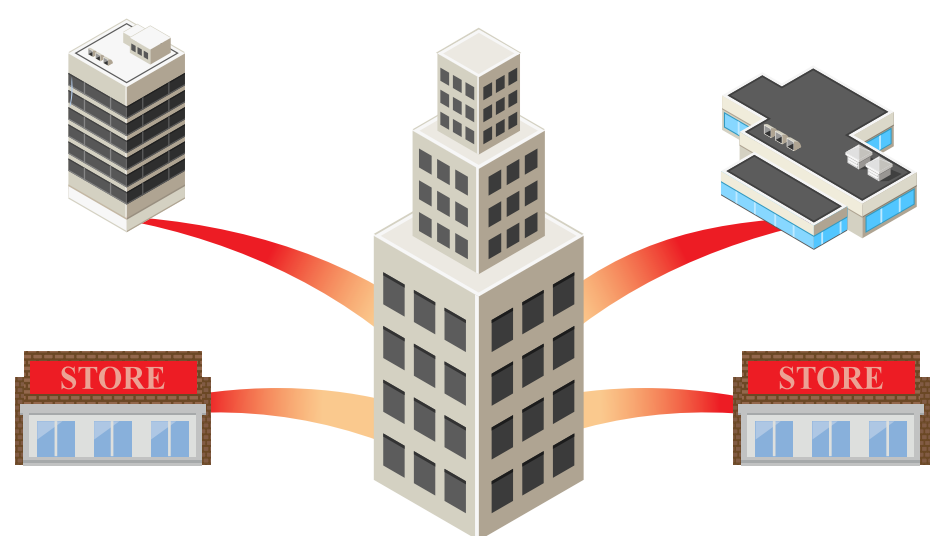


分散型エンタープライズ のための5つのネットワークセキュリティ課題

すべての業種・業態の一般企業は企業の拡大に伴い、より分散型な形態に発展する傾向があります。従業員による本社ネットワークへのリモート接続に加え、本社と事業所や地方拠点などとのセキュアな接続が必要となります。特に流通・販売、病院・医療関係、金融関連企業では中央エンティティと独立した拠点間のセキュアなネットワーク接続は大きな課題となっています。



1 ファイアウォール設定の不整合

ファイアウォール侵入原因の**95%**は
トラフィック管理よりもファイアウォールの設定ミスである

95%



Gartner, Inc. "One Brand of Firewall Is a Best Practice for Most Enterprises" November 28, 2012.

86%



86%

2 ネットワークの盲点

シニアエグゼクティブの**86%**は、企業ネットワーク内で発生しているすべての事象の可視化に関するギャップがあると感じている。

2

RedSeal, "RedSeal Infographic Strategic Cybersecurity" n.d.

3

3 接続デバイス

2020年末にはすべての人が3台のネットワーク接続デバイスを所有

Gartner - <http://www.zdnet.com/article/25-billion-connected-devices-by-2020-to-build-the-internet-of-things/>



コンプライアンスの重要性

組織の**69%**はセキュリティプログラムの優先順位をコンプライアンスとしている。



69%

4

SANS Institute, "Security Spending and Preparedness in the Financial Sector" June 2015.

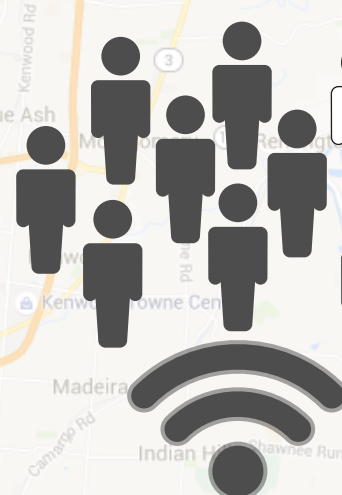
Wi-Fi無線LANの要求の増加

5

78%

一般消費者の**78%**は外出した際に、公共の無線LANアクセスポイントを探している。

BizReport, "Free WiFi in Retail Venues" July 15, 2014.



ウォッチガードの Firebox® UTM(統合脅威管理)アプライアンスと無線アクセスポイントを活用することにより、分散型企業は、一貫性を持ったエンタープライズグレードのネットワークセキュリティと安全な無線を、すべてのリモート拠点に対して技術の専門家がいなくても、容易に構成、実装、管理することが可能になります。実装が容易なベストインクラスのセキュリティの他に、ウォッチガードの実用的な脅威インテリジェンスプラットフォーム Dimensionでは、組織のネットワーク全般を一元的に可視化することができます。可視化は、ネットワークのヘルス状態の追跡・管理、コンプライアンス要件に関するレポート、可能性のあるネットワーク上の脅威の特定・排除、そしてビジネスにおけるプロアクティブな意思決定において、非常に重要だと言えます。

詳しくは:

watchguard.co.jp/special/distributedenterprise

